

アクションプラン

令和8年度 村椿小学校アクションプラン —1—	
重点項目	温かい人間関係づくり
重点課題	挨拶の推進【あったか つばきッズ】
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動では、ほとんどの児童が挨拶を返す。しかし、それ以外の場面になると、挨拶をしなくなる児童が多く見られる。自発的な挨拶の面で、まだまだ課題があると言える。 ・「あったか言葉・あったかアクション」という言葉は浸透している。学校生活の中で、さりげない「あったか言葉・あったかアクション」が見られる一方で、深く考えないで発する「ちくちく言葉」も聞かれることから、児童が意識して実践しているとは言えない。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・強調週間を設け、時と場に応じて気持ちのよい挨拶『あいてを見て いつでも さきに（自分から）つたえる（場に応じた声の大きさで）』を1日5回以上できる児童の割合が全体の90%以上になることを目指す。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も計画委員会を中心としてあいさつ運動を継続する。また、気持ちのよい挨拶をしている児童を「さわやかあいさつさん」として、昼の放送で紹介することで、全校児童の挨拶に対する取組意欲を高めていきたい。時と場に応じた挨拶を意識できるように『あいてを見て いつでも さきに（自分から）つたえる（場に応じた声の大きさで）』を相手に伝わるさわやかな挨拶のポイントとして指導し、児童に目標をもたせて取り組ませる。また、PTAや地域との連携は有効であると考えているので、具体的な取組を検討する。 ・相手を思いやる言葉や行動のよさを意識できるよう、引き続き「あったか言葉の木」に「あったか言葉」や「あったかアクション」を書いた花や葉を貼ったり、それらを紹介したりする。家庭における「あったか言葉」を広める「あったか家族大作戦」にも取り組む。また、人権意識チェック表を活用したセルフチェックを実施することで、児童、教職員共に、全校での人権意識の維持と高揚を図る。 ・学校だよりや学年だより等で、学校の取組を知らせたり、家庭や地域での挨拶の習慣化を呼びかけたりする。

令和8年度 村椿小学校アクションプラン —2—	
重点項目	学力向上
重点課題	「よく考える子」の育成【きりっと つばきッズ】
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「話すこと（表すこと）」共に目標の80%を達成したが、「話すこと（表すこと）」は「聞くこと」より8%程度低く、より向上を目指すための方策が必要である。また、友達と関わり合い、自分の学びを自己調整していくことにも課題がある。 ・相手の話を静かに聞いている児童が多い。しかし、全体での話し合いでは友達と関わり合って自分の考えをもつことに課題が見られる。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・強調週間を設け、自分の考えを表し（発言、ハンドサイン等）、伝えることができる児童の割合が全体の85%以上になることを目指す。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「つばきッズの学習ルール（下・上学年用）」「目指せ！聞く・話すウルトラ名人」「声のものさし」「ハンドサイン」等の学習ルールに関わる資料を各教室に掲示し、村椿小の学習ルールとして全校で統一して指導する。 ・相手の話を考えながら聞くことで、自分の考えをもつことができ、考えを表すことができる。その際、児童が考えながら話を聞いているかをハンドサイン等で細やかに把握し、意図的指名等により児童が考えを表す場を設ける。一人一人の考えから、全体の考えの深まりを目指し、「考えながら聞く」ことを意識させるとともに、学習の成就感を味わわせるよう努める。 ・自分の考えを話すことに抵抗のある児童について、やや詳細な話型を掲示し、考えを話しやすくする手立てを講じる。自分の言葉で話す機会を学級活動や行事等で仕組み、自分の思いや考えを話す機会を増やすことで、話すことに対する抵抗を少なくする。互いの思いや考えを受け入れ、認め、共感する学級の雰囲気づくりに努める。 ・児童一人一人のよさや特技に目を向け、自分を表現することに心地よさを感じられるような場の設定に努める。（ミニコンサート、各種大会・発表、作品制作・展示、ステージ発表等）

令和8年度 村椿小学校アクションプラン —3—	
重点項目	健康づくり
重点課題	体力の向上【健康 つばきッズ】
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導や健康観察時の生活習慣チェックの取組により、早寝早起きやメディアコントロール等、望ましい生活習慣についての意識を高めてきた。 ・近年の児童を取り巻く環境の変化により、体を動かす機会が減少している。本校でも習い事で運動をしている児童と運動不足の児童の二極化が激しい。休み時間には、いつも決まった児童がグラウンドや体育館で体を動かして遊ぶ様子が見られる。 ・昨年度から取り組み始めた業間のサーキット運動は、あまり運動を得意としない児童も無理なく楽しんで体を動かすことができるよい機会になっている。 ・一昨年度と同様に昨年度の体力テストの結果でも、男女共に握力と上体起こしに課題が見られた。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回の業間運動への取組を通して、日頃から体力の向上に取り組む、年度初めの体力テスト（握力、上体起こし）の記録をもとに児童が自ら目標（数値）を設定し、半年経過後の記録が自分の目標を上回った児童の割合が全体の80%以上になることを目指す。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初め（4月中、遅くとも5月前半くらいまで）に握力と上体起こしの記録をとり、それをもとに児童が個別に目標（数値）を設定する。その際、県平均や全国平均の数値も参考にし一人一人に適した目標を立てるようにする。 ・週2回の業間運動「GO!GO!つばきッズ」の時間には、全校で3分間走やサーキット運動に取り組み、基本的な体力の向上に取り組む。 ・体育や「GO!GO!つばきッズ」の準備運動にグーパー運動を取り入れ、全校一斉に取り組み握力を高めるようにする。 ・体育委員会が企画する縦割り班での活動、なわ跳び等を全校で実施し、様々な学年が交流しながら楽しく体を動かす機会を設ける。 ・体育の授業や体育的行事の内容の充実に努め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。